

之締交不出一窓而觀千里不過寸陰殊萬古樂之尤甚無過于此樂道與遇亂憂喜之異不可同日而語豈不自擇哉宜審思而已而近曾所染則少人所爲唯俗事性相近習則遠縱雖有生知之德猶恐有所陶染何況不及上智乎立德成學之道曾無所由嗟呼悲乎先皇緒業此時忽欲墜余雖性拙智淺粗學典籍欲成德義興王道只爲宗廟不絕祠宗廟不絕祠宜在太子之德而今廢道而不修則全所學之道一旦填溝壑不可亦用近所胸哭泣呼天大息也五刑屬三千而辜莫大於不孝不孝者不如於絕祠可慎可不忍乎

〔看聞日記〕永享六年三月廿四日抑禁裏詩冊事被仰下之間進之啓蒙對初心詩誠太子書一帖花園御作光殿院春宮之時被遊進御學問事也此兩三帖進之

〔椿葉記〕人皇始りてより其御しそんの代々にうつりかはらせ給ふ御ありさまはいそのかみふるき物がたりどもにみえ侍るうへいへくの日記にもしるし侍ればおぼつかならずちかさよの事九十八代崇光院よりこのかたわが一りうのすたれつるありさまは世の人のしるすべきにもあらねばなにはのよしあしにつけていり江のもくづかきをくあとははかりあれどもこの水のあさきにまかせてこと葉のはなをもかざらずたゞありのまにおもふ事のかすかずを後花園きみのゑいらんにそなへむためばかりにしるしつけ侍る也中そもく樂のみちの事

代々は十さいよりうちにこそ御さたありしにすでに御せいじんになるまでそのぎもなきころえなくおぼえ侍る御笛あそばさるべしときこゆればおんの御れいめでたき御事なるべし又絃管をあひならべてあそばさるせんれいのみこそあれあひかまへて御琵琶をもあそばさるべきなりしやうこのれいはをきぬ中古いらい後深草院ふしみのおん後ふしみのおんおはうごんおん崇くはうるんこしんわうなどことさらに御さたありつる事なればいかにもあそばさるべきなり中又なによりも御がくもんを御さたあるべき事なり一でうおんごし